

独断

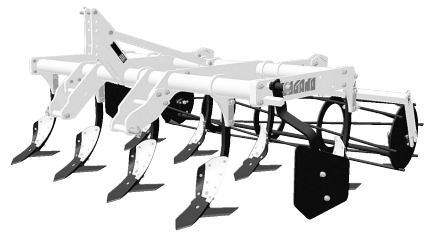
注目商品

# REVIEW

## 反転・混和作業の高速化で 耕起コストを低減！

耕起作業機

### 国スタブルカルチ



■希望小売価格（税込）

●40～70馬力トラクタ用MSCシリーズ

MSC6PY、PS / 701,400円～

MSC8PYL、PSL / 789,600円

北海道限定MSC8CL / 663,600円

●70～150馬力トラクタ用SCシリーズ

SC8PY、PS / 886,200円～

SC10PY、PS / 1,072,050円～

SC12PY、PS / 1,244,250円～

■お問い合わせ

スガノ農機(株)

〒3000405

茨城県稲敷郡美浦村大字間野字天神台300

TEL 0266-886-0031

http://www.sugano-net.co.jp/

表土を粗く耕し、<sup>ばっかん</sup>麦稈などの残渣物と土を混和させるスタブルカルチ。文字通り「STUBBLE（スタブル）」＝「刈り株」を処理するインプルメントだが、表土がよく乾くため砕土もよく、後作の播種精度を高めることができる。

また、効率的に残渣を腐植させることで、バクテリアの窒素吸収を早め、地温が上昇する作物の生育期に土壌の窒素バランスが崩れることを防いでくれる。

耕起作業機の開発を得意とするス

ガノ農機(株)は、これまでも数々のスタブルカルチを世に出してきたが、このほどモデルチェンジを実施。水田、畑作向けに全38形式を新発売した。優れた反転・混和性と、作業の高速化を誇る今回の商品は、省力経営のためのツールとして注目を集めそうだ。

7月に先行発売されたSCシリーズ全31形式は、70～150馬力のトラクタに対応。スリック製Pチゼルやスチール製Pチゼルをはじめ、カットナイフ付き、フラット、細爪の

計5タイプのチゼルをラインナップしている。爪数は8本、10本、12本の3種類があり、作業に応じてチゼルを選べる。

同社が「超混タイプ」と称するPチゼルは、砕土性を高める大型ウィングを備えるほか、ひねりを加えたモールドボードが装着されているのが特徴だ。いわゆるプラウに似た形状で、反転・混和性を向上させている。新モデルは前列・後列がそれぞれ逆方向の反転なので、鋤き込みムラがなく、きれいに起こせるようになっていて、プラソイラやプラソイラDXシリーズの細長いモールドボードとは違って、耕土を高く跳ね上げることもなく、さらに新装備のサイドカバーによって、耕土の横方向への飛散も防止できる。

また、9月に発売されるMSCシリーズは、40～70馬力のトラクタに対応。6本爪と8本爪とがあり、最大耕深は約30cm。6本爪タイプにはオートヒットフレーム対応型も設定されており、容易な着脱を可能にしている。

そしてこれらの全形式共通の新装備として、後部のパイプローラに土詰まりを防ぐ「フリーボー」が採用されていることにも注目したい。チゼルによって反転耕起された表土を

パイプローラがムラなく粉碎し、効率的に表層にすき込んでくれる。旧モデルでは、耕起幅よりもパイプローラが長かったため、未耕地に乗り上げて片効きになったり、破損する原因になっていたが、新モデルではそれも改善。耕起幅より内側に収めることにより、チゼルで起こした部分を確実に砕土できるようになった。

ちなみに標準作業速度は時速5～8kmなので、時速1.5～2km程度のロータリ耕と比較すると、作業時間が大幅に短縮されることになる。労力面だけでなく、耕起面積あたりの燃費削減にもつながるだろう。

耕すことの基本はあくまでもプラウによる深耕であり、簡易耕起の是非が語られることもある。しかし、ここまで進歩したスタブルカルチであれば、その恩恵を活かさない手はない。たとえば食用のジャガイモを作った後に秋小麦を播く場合なら、スタブルカルチによる簡易耕起で十分だろう。経営面積が大規模であるほど、こうした省力化の意義は大きくなっていくはずだ。能率耕という観点から、あなたの作業体系の中に取り入れてみてはいかがだろうか。

（土井学）